

## 表題：さらなる飛躍のための提言

～パチンコを国民大衆の気軽な遊びとして、多くの人に参加する産業とするためには～

目次(任意)

学校名・学部・学科：旭川医科大学 医学部医学科 5年

氏名：加藤 剛

パチンコは、国民の娯楽として、昔から多くの人々に支持されてきた。一方で、近年パチンコの参加人口が大きく減少している。レジャー白書 2008 によると、パチンコ参加人口は 1450 万人と、前年と比較し、210 万人の減少と、5 年連続の減少となり、同時に市場規模となる貸玉料も、23 兆円弱となり、前年と比較し、5 兆円弱の大幅な減少となった。これを象徴的に示しているのが、2007 年のパチンコ店経営業者の倒産の増加で、帝国データバンクによれば、件数にして 72 件、前年比 33.3%の大幅増加となった。

この大きな要因としてあげられているのが、他の競合するレジャーの多様化、パチスロ機の規制強化、それに貸付金額を年収の 3 分の 1 以下に制限する貸金業法の改正があるといわれている。このように、パチンコをとりまく環境には厳しいものがあるが、いままでのパチンコも成長と停滞を繰り返してきたことが、パチンコの歴史の中にもたどることができる。現在のパチンコを取り巻く環境の厳しさを、次の世代の繁栄につなげていく絶好のチャンスだととらえることもできると私は考える。パチンコに存在する様々な問題点等は、一般的に広く議論されているため、今回はパチンコをより多くの国民に参加してもらい、気軽に楽しんでもらうための具体策を提案させていただきたいと思う。

まず、医学的に見てパチンコがもたらすよい面を検証し、広く広めることである。パチンコ依存症などのような、パチンコのマイナス面ばかりが強調されている点に関し、医学的側面からプラス面を積極的に発信し、多くの国民に知ってもらうことができるのではないかと考える。私は、将来精神科を志し、パチンコ業界にも何らかのお役に立てればと思っている。現在医学部 5 年であり、すべての診療科について臨床実習を経て来た経験や、ホール運営会社に勤務していた社会人経験を通し、医学的にパチンコがからだに良い影響をもたらす可能性がある点に気がついた。それは下記のような点である。

- ① 高齢化社会を迎える中で、高齢者に対し、パチンコを通しての脳の活性化（ボケ防止）の手段を提供する
- ② 脳血管障害、外傷などの患者さんの機能回復（リハビリテーション）
- ③ ストレス解消によるうつ病発症の減少
- ④ 夫婦、友人どうしで遊技することでコミュニケーションが活発になることによる癒し効果

これらの点のいくつかについて、実際に研究に取り組むことはそう難しいことではない。また大部分の遊技者が、社会的活動を損ねることなく、パチンコを楽しめていることを考えると、パチンコ遊技にも、精神的、肉体的に、遊技者に良い影響を与える要素もあるはずである。そのような点を研究し、公表することによって、可能であれば病院、診療所などと連携しつつ、積極的に情報発信することにより、多くの国民に親しみやすいパチンコというイメージを浸透させることができるのではないかと考える。

次に、外国人観光客が親しみやすいようなパチンコを提供することによって、外国人の高評価を得ること（たとえばインターネット動画や、テレビ、インターネットのニュースなどで伝えられること）を通して、日本のいままでパチンコになじみのなかった層にまで、

パチンコの魅力を伝えることを提案したい。パチンコは、カラオケ、漫画とならんで、個人的には現在の日本文化を象徴する娯楽であると思っている。パチンコのルーツからして、戦前から日本で独自の進化を経て来た遊技であること、その素材として、アニメ、音楽（演歌、ポップスなど）、花札、江戸時代の物語、時代劇などが使われ、それを動かしている機械が、日本の電子産業の最先端テクノロジーが駆使されているものであることなど、現代日本を知る最も有効かつ楽しめるツールであるのに、日本に来る外国人観光客にはほとんど知られていない。ビジットジャパンキャンペーンを行い、観光立国を目指している日本の、観光誘致の切り札の一つは、パチンコであると考えている。外国人にもわかりやすい遊技上の配慮は、パチンコに全くなじみのない人たちに、パチンコを始めてみようと思うようにするための配慮でもあり、また、外国人もおもしろそうに遊んでいる姿やその映像を見て、自分もやってみようと思う国民も増える事と思う。具体的には、以下のようなことを提言したい。

- ① 日本文化を代表するものの一つであるパチンコを、観光素材としても外国人に楽しんでもらうように、外国人誘致活動を、観光庁などとともに積極的に行う
- ② 日本文化を特によく知ることのできるようなモデルホールを、京都、東京などにつくる。内装が江戸情緒、あるいは平安調など。
- ③ 場内の案内を英語、中国語併記にし、簡単な英語を話せるようなマニュアルを作成し配布する
- ④ 遊技方法やその楽しさを解説した映像を Youtube などで流し、日本のパチンコが魅力的であることを伝える
- ⑤ Lonely Planet などの欧米人にとっての著名な旅行ガイドや、BBC などの海外放送局に取り上げてもらうように積極的にアピールする

以上は、私自身が、観光の企画に関するベンチャーを立ち上げていて、その経験の中で感じたことである。

3つめに、国民のより多くの人に参加しやすいような環境を整備することである。すでに行われている低貸し玉営業は、いままでの業界の慣習を大きく変えた劇的なものであり、より手軽に参加できるパチンコとして、高齢者層を中心に、幅広い支持を集めている。日本が高齢化社会を迎える中、団塊世代を中心とした層をターゲットとするとした提言は、以下のようなものがある。

- ① バリアフリー構造の店舗
- ② 膝、腰に負担のかかりにくい椅子の導入
- ③ 一般景品として、生活習慣予防、健康志向のものを多く揃える
- ④ 遊技場内の移動販売品目も、健康志向のローカロリー、塩分控えめのものにする
- ⑤ 簡単な介助であれば、介護人同伴での遊技を認める
- ⑥ 地域の趣味のサークル活動に、端玉景品未満の玉を寄付できるようにする

まとめとして、パチンコ産業は、多大な社会貢献をしてきたことはいままでもない。そ

れは、雇用の創出や、地元商店からの購買等を通じての経済波及効果、集客効果、納税者としての役割など、あげればきりが無い。さらに、日本を代表する独自の守っていくべき文化であり、外国人にとって日本観光で味わうに値する素材であると考え。一方、昨今のパチンコを取り巻く環境に対応し、射倖性を抑えた、低貸玉営業、1円パチンコ、5円スロットなど、血のにじむような多大な経営努力をすでに行い、一定の成果を得ている。パチンコ産業が、より健全に、より多くの国民の参加を得て繁栄するために、ここでもう一段の、パチンコ業界の努力が必要になるであろうが、いままで何度となく障害に直面し、それを乗り越えてきたパチンコ業界であり、現在の厳しい状況であっても、次の繁栄につながるヒントを発掘し、これを生かしつつ、様々な取り組み、努力によって、厳しい状況をきっと克服するだろうと確信している。